

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：村山 一弥

事業名 一般国道20号八王子南バイパス <small>はちおうじみなみ</small>	事業 一般国道	事業 国土交通省 関東地方整備局
起終点 自：東京都八王子市北野町 <small>とうきょうと はちおうじ しきたのまち</small> 至：東京都八王子市南浅川町 <small>とうきょうと はちおうじ しみなみあさかわまち</small>		延長 9.6km
事業概要 八王子南バイパスは、八王子市域の混雑緩和や交通安全の確保とともに、圏央道のアクセス道路として行動範囲の拡大や移動時間の短縮を目的とした八王子市北野町から同市南浅川町までの延長約9.6kmのバイパス事業である。		
H9年度事業化	H8年度都市計画決定	H10年度用地着手
H13年度工事着手		
全体事業費	約1,452億円	事業進捗率 57%
計画交通量	24,500～47,600台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 2.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 493/1,585億円 事業費：466/1,549億円 維持管理費：27/35億円
	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,313/2,232億円 走行時間短縮便益：1,246/2,121億円 走行経費減少便益：51/95億円 交通事故減少便益：16/15億円	基準年 平成29年
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.3～1.6（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.4～1.5（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.6（事業期間 ±20%） 【残事業】 交通量：B/C=2.4～2.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.4～2.9（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.4～3.0（事業期間 ±20%）		
事業の効果等 ①交通渋滞の緩和 ・八王子南バイパスの並行区間である国道20号現道は、渋滞損失時間が約1,381千人時間/年・kmであり、特に大和田町4丁目交差点から八幡町交差点にかけて顕著な渋滞が発生している。 ・八王子南バイパスが整備されることにより、国道20号現道は、交通が八王子南バイパスへ転換し、渋滞の緩和が期待される。 ②安全安心な通行の確保 ・八王子南バイパスの整備により、国道20号現道の交通が転換し、交通事故の減少が見込まれる。 ③アクセス性及び利便性の向上 ・八王子南バイパスの整備により、圏央道高尾山ICへのアクセス性や走行性が向上し、横浜港への物流出荷能力の向上や、観光地への所要時間短縮に寄与する。 ・八王子南バイパスが整備されることにより、日野市役所から東京医大八王子医療センター迄の所要時間が短縮され、救命率の向上に寄与する。		
関係する地方公共団体等の意見 東京都知事の意見： ・本事業は、並行する国道20号現道及び北野街道の渋滞緩和や圏央道へのアクセス性の向上に資する重要な事業である。また、東京医大八王子医療センターなどの救急医療施設までの所要時間が短縮され、救命率の向上にも寄与することが期待される。このため、必要な財源を確保し、早期完成に向け、事業を推進されたい。また、事業実施にあたっては、コスト縮減を図るなど、より効率的な事業推進に努めること。		
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・日野バイパス（延伸）Ⅱ期がH29事業化。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成9年度に事業化、用地進捗率92%、事業進捗率57%（平成29年3月末時点）。
- ・平成26年度に大船寺田地区の約0.3kmを、暫定2車線で開通。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成27年に試掘を行った結果、貴重な遺跡等が発見され、包蔵地全ての本掘調査が必要となった。
- ・引き続き用地取得を推進し、用地進捗状況を踏まえて順次工事着手予定。

施設の構造や工法の変更等

- ・館第一トンネルは、開削工法での施工を予定していたが、宅地開発が急速に進展したため、周辺環境への配慮やコスト縮減が図れる非開削（シールド）工法へ変更する。
- ・技術の進展に伴う新工法の活用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

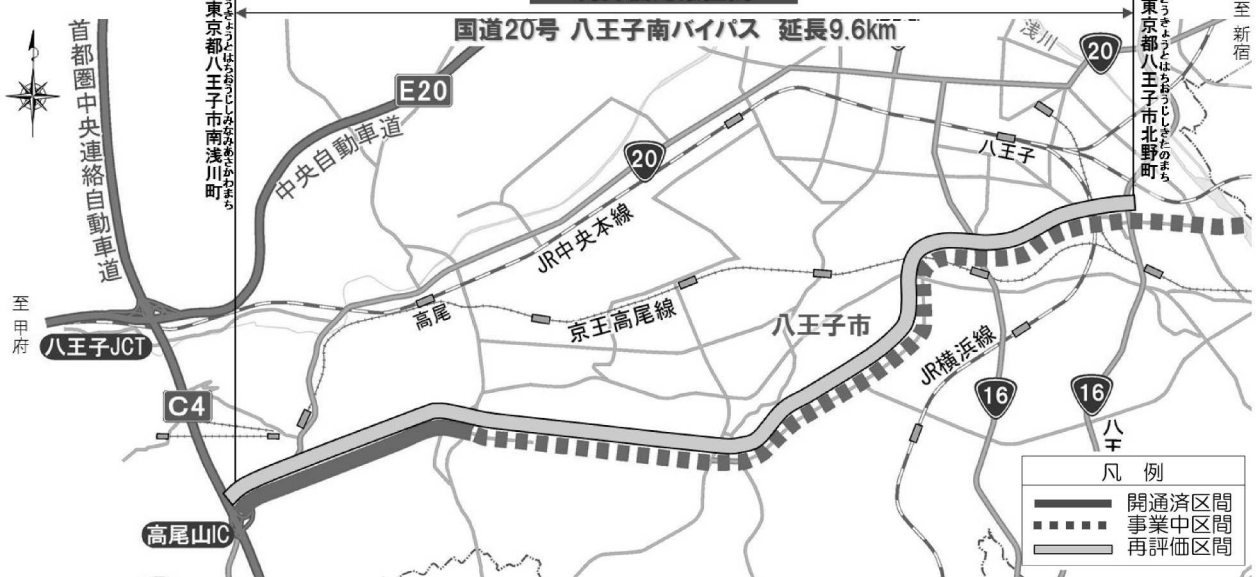
対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



再評価対象区間



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。